

目白大学新聞



編集
目白大学社会学部
〒161-8503
新宿区中落合四-1-1
TEL
03-5996-1333

「目白大学新聞」ウェブサイト
http://www.mejiro.ac.jp/univ/mu_journal/index.html

2013年春新しく始まる ベーシックセミナー フレッシュマンセミナー —— 新井正一 新副学長に聞く

2013年、安倍政権が本格的に活動し始め、目白大学でも4月の新学期から新しい取り組みが始まる。その取り組みは、これまでとどう違うのか。昨年10月に副学長に就任された、社会学部社会情報学科の新井正一教授に聞いた。



新井正一

<大学院> 東京理科大学理学研究科物理学専攻。
<専門分野> 地球物理学 → 環境情報科学。
<職務経験> 個人事業を設立しフリーで地球物理学に関するアプリケーションの開発に従事。
<趣味&自由な時間の過ごし方> 自然の中で過ごすことが大好きですが、大学院時代から24時間コンピュータに振り回され、自然の中に居てもコンピュータに束縛されているように思えます。
<副学長としての抱負> 先生と学生との相互作用を活かした活気ある大学として成長していければと思っています。

全学的な新しい取り組みの目玉は、ベーシックセミナー。これは従来の1年生必修科目であった「キャリアデザイン」に代り行われる授業である。具体的にどう変わるのだろうか。

「これまでのキャリアデザインというのは、1年生のころから卒業後の進路や、就職活動に必要な知識を学ぶことを中心としたカリキュラムなのですが、ベーシックセミナーは1年生の間に、大学生という（今）の自分に焦点をあて、もっと学生や先生とコミュニケーションを深めていくことで、自分が興味のある専門分野は何かを見つけていこうという取り組みです」と新井副学長。

そのためこれまでとは違い、クラス分けも約40人から、20人程度と少人数で行われ、内容も大学での学びに焦点を当てて。

最も多かったのは、景気の回復と雇用の増大だった。自分たちの将来に關わっているため、これを改善して欲しいという声が圧倒的に多かった。特に就職活動を控えている2・3年の学生たちは、異口同音に口にした。

次に多かった意見は、昨年の衆院解散と引き換えに民主・自民・公明の3党で合意した衆院の議員定数削減だ。政治家も自ら痛み分けをして、政府の支出削減に努力しなければならないという学生の強い願いを反映しているのだろう。

加えて多かったのは、原発問題であった。現実的な意見が聞かれ、原発を廃止するのではなく、震災の緊急時にも耐えられるように改良するべきだという意見がほとんどだった。やはり原発については、多くの学生が不安視しているようだ。

また、2014年から上がる消費税についても、多くの大学生が関心を持っていて、これ以上の増税に反対という意見が出ている。

他の要望は、学費の削減や全大学の在籍年数を統一し、目白大学の在籍可能年数を増やしてほしいかという発言であった。福島県に親戚がいるという学生からは、避難民の生活の改善を望む意見

変わるの1年生のためのプログラムだけであり、2年生からは従来通り社会に出ていくためのカリキュラムを推し進めて行く。

新フレッシュマンセミナー

もう一つの新しい試みは、フレッシュマンセミナーの時期を入学直後ではなく5月に遅らせて、期間も泊3日から泊2日に変更することだ。

「従来のフレッシュマンセミナーだと初めて顔を合わせる人も多く、宿泊する際の部屋割りや学籍番号順で決まってしまうため友達のコミュニティがそこだけになってしまふ。そうではなくて大学生活にも慣れてきた頃の5月に開催し、コミュニティが出来てきたころに実施することによって、仲間ともしっかりとコミュニケーションをとることができ、1泊することとでは普段とは違う一面も見ることができると思う。そうすることによって友達の輪を広げることが出来るのではないかと」と、新井副学長は説明する。

大学生の安倍政権への要望

大学生は、安倍政権に何を期待しているのだろうか。目白大学生を中心に街頭インタビューを通して「新政権に期待すること」を探った。

が出た。さらに子供を育てやすくするため育児補助増額の要望や、保育所をもっと作って欲しいという声が開かれた。自らの将来を見据えての期待であろう。

ところで一部の男子学生からは、半ば冗談、半ば真剣に「イケメン税を実施して恋愛の格差を是正を願う突飛な意見も出ていた。たぶんそれは、見た目の良い男性にイケメン税を課し、不平等を少しでも是正すればイケメンではない男性にも恋愛のチャンスが増え、結婚に結びつくのではないかと」という思惑からであろう。実現の可能性は限りなく低いとはいえず、その切実な思いだけは理解できるような気がする。

予想に反して意見が分かれたものの、やはり一番学生たちが望んでいるのは景気回復のようだ。自分たちにとって最も深刻な問題の一つである就職活動や、将来的に自分たちが生活できるのかといった不安に直結しているからであろう。

この問題は、バブルの崩壊以降の政権も解決に失敗してきた。新政権には、今度こそ景気回復に成功し、成長を望む学生たちの切なる願いが込められている。

(編集部3年 阿形宏一)

「教員になってずっと思っていることは、学生と共に大学を作ってあげたいいなということ。副学長になったからといって学生と距離を置いてしまうのではなく、学生と混ざって何かしていきたい。前任者の岩崎先生は先生方のトップに立って引っ張っていきけるような素晴らしい方でしたが、私は正反対の人間な

ので引っ張っていくというよりは、一緒にやって取り組んでいきたい」と

学生の意欲の低下

新井先生は1987年から本学で教えてきたが、この25年で学生の意欲の変化が見取れるという。

「昔の学生に比べて、自分で何かをゼロから切り開いていく意欲みたいなものがすごく落ちてきているように思う。先生側があれやろうこれやろうと言ってもあまり乗り気になってくれないで、そこが寂しいかな。だけど、教育のイノベーションということを考えていかななくてはならない今、教員が考えるだけではダメで、学生のみならず一緒に考えていって欲しいです」

(編集部3年 齊藤絵梨)

大学生に聞いた 安倍政権に期待すること

1位	雇用・景気回復
2位	有言実行の政治 議員削減 増税反対 原発のより安全確保
3位	新エネルギーの開発 初任給の増額 大学の改革(在籍年数の増加、学費の削減など) 高所得者のみ増税

その他の意見
福島の避難民の生活改善
育児保護
保育所の増設
消費税の正当な配分
TPPの参加是非の国民投票 など

岩槻キャンパス



人気教授紹介

保健医療学部
言語聴覚学科
齋藤佐和 教授

岩槻キャンパスと新宿キャンパスは遠い。新宿から岩槻に行くだけでもかなり大変だ。ところが午前中、岩槻で仕事をこなし、夕方からは新宿で講義している先生がいる。保健医療学部言語聴覚学科の齋藤佐和教授は、同学部長として多忙な日々を過ごしながら、新宿キャンパスに昨年4月設置された大学院リハビリテーション学研究所長として教鞭をとっている。今年70歳、柔和な語り口と、若々しい笑顔のなかに凛としたものが窺える。その元氣とタフネスは、どこから来るのか。

人形の街

岩槻発見

目白大学岩槻キャンパスのある岩槻。そこは「人形の街」として有名である。なぜ、岩槻は「人形の街」として知られているのか。創業150年の「人形の東玉」の大島一敏さんによると、その起源は約370年前、寛永年間（1634年～1647年）三代將軍徳川家光公による日光東照宮の造営に遡るといふ。

日本一のシエラを誇る岩槻

日光東照宮の造営にあたって、全国から工匠たちが集められた。その中に宿場町として栄えていた岩槻周辺に住み着いた工匠がいた。当時、岩槻には桐の木が多く、箆筒や下駄を多く作っていた。その製品を作る際に出てくるおがくずで工匠が人形の頭を作ったことが人形作りの始まりだとい

「若いときから言語聴覚を専門にしようと考えていたのですが、大学を出てから(うつ)学校の先生になりました。聴覚障害の人が近くにいましたから、学生のときから、聴覚障害関係の仕事をするようになってきました。きっかけは身近な問題でした」
岩槻と新宿キャンパスを往復されていますが、学生の違いは何でしょうか。

「岩槻の場合、授業は知識だけでは済みません。知識を実際に生かせるように、臨床実習などがあります。それに新宿の学生さんと一番違うのは、岩槻の学生はみんな国家試験を受けたいといけないうことです。例えば、言語聴覚士の職業に就きたいのなら、国家試験をパスしないといけません。資格試験ですからね、受からないと4年間せつかく勉強しても、その仕事ができないということになります。だから一年生からよく勉強しています」
「1960年代後半、フランスに3年間留学されていました。そこで一番学んだことは何でしょうか。」

「自分の国のことは自分で考えなければいけないということを知りました。私たちの時代は、海外がいっぱいモデルで憧れがありました。でも、聴覚障害児の言語教育では、日本のことは自分たちで考えないといけないのではないかと気付きました。今の若い人たちはインターネットなどがあり、海外に行きたがらないのかもしれませんが、行けば絶対に得るものがあるはずですよ」

しっかりと働くことが大切

「自由時間はほとんどないですね。通勤時間が長いので歴史書やミステリーを乱読しています。いま頭にあることは、きちんと仕事を終わりたいということです。例えば、始めたばかりのリハビリテーション学研究所の最初の修士論文の完成まで、ちゃんと面倒をみてきちんと第一期生を修了させてあげたいと考えています」

「しっかりと資格を持って、しっかりと働く人になってほしいと思います。職業はやはり大事なものです。単に給料をもらうだけではなく、自分の仕事として、きちんとした職業人になるということが大切です。資格を取って言語聴覚士になっても、そこからがスタートです。リハビリテーション職は、これからの高齢社会では大事な仕事です。自分の仕事としてしっかりとやってもいいと思いますね」

「卒業生に期待することはありますか。」
「目白大学の学生は、丁寧な教育を受けていると思うので、どんな仕事でもきちんとできる人だなという評価を受けるようになってくれればと思います。ずば抜けた人ではないかもしれませんが、しっかりと仕事をこなせる人間になってくれれば嬉しいですね。そういう人たちが社会を支えているわけですから」
(編集部3年 齊藤絵梨)

や各部位の材料が全て揃うのは日本で岩槻のみだといふ。それは岩槻の人口が約10万11万人で3000世帯近くあり、そのうちの1000世帯が人形制作の仕事に何らかの形で携わっているからである。

岩槻の人形には大きくわけて2種類がある。ひとつは衣装着人形。これは反物を実際に人間が着るのと同じように作り、そこに袖を通して着せ付けをし、形を整えていくもの。他は木目込み人形。型に桐の粉と糊を流し込み、溝を掘り、そこに布を被せて作るもの。この2つが国の伝統工芸品として認定されている。

四季折々のイベント

岩槻で一番大きい人形のイベントは、毎年8月第3週、4週に行われる「岩槻人形祭り」。人形仮装パレードや、世界一大きい雛段など見どころの多いお祭りである。11



東玉博物館にて

月3日には「人形供養祭」が行われる。昔の岩槻城跡が文化公園になっており、そこに「人形塚」という墓があり、全国から集められた人形をそこで供養する祭りだ。また、2月中旬～3月下旬に「まちかど雛めぐり」が開催される。これは街全体が、それぞれのお雛様を店頭に飾るもの。4月29日に催されるのが「流し雛」。子供たちの無病息災を雛人形の原型であるさん儀に託して、水に流す行事である。

「人形の東玉」では博物館や、人形作りの体験もできる。知れば知るほど、奥が深い岩槻の人形の世界だ。
(編集部3年 丹羽・張貝康)

ロックで交流

目白大学に在籍しているものの、キャンパスが違えば関わりはほぼないといえる。しかし、軽音楽部・音楽部は違う。学園祭には互いに出演し、合同ライブを企画するなど、積極的に交流をしているのだ。

毎年8月には、北浦和のライブハウスにて「新宿 VS 岩槻」を開催。ライブ後は一緒に打ち上げもして打ち解ける。新宿キャンパスは、岩槻キャンパスに比べ部員数やライブの回数も多い。機材などを共有して使用したり、外でのライブに岩槻キャンパスの部員が出演することもある。また、

軽音部 音楽部

キャンパスは関係なくOBがライブに参加することもあるという。「桐翠祭」なるイベントが2008年から続けられている。軽音楽部と音楽部だけの学園祭だ。毎年11月のはじめ頃、両キャンパスの現役部員、OBが集まってライブを行う。「桐翠祭」では、現役部員もOBも関係なくバンドを組んで演奏する。キャンパス同士の交流だけでなく、本来ならば関わることのない世代との交流も深めているのだ。代々受け継がれるこのような交流はとても貴重である。

今後、他の部活やサークルにもこの交流が広がって欲しい。
(編集部3年 後藤奈菜)



北浦和のライブハウスにて



社会学部メディア表現学科2年 軽音楽部部長 武山和正

新宿キャンパスの軽音楽部の部員は約144名。月曜日～日曜日(土曜日除く)に活動している。1年を通して、学内では10回、それ以外にもライブハウスを貸し切ったりして4、5回はライブを実施する。バンドのメンバーは特に固定されておらず、ライブの度に新しいバンドを結成。様々な曲に挑戦することが、個人の技術向上にも繋がっている。スタジオで練習をし、1号館地下1階のローズウッドラウンジでライブを行っている。ロックが結ぶ、和気あいあいとした雰囲気だ。



保健医療学部理学療法学科2年 音楽部部長 高梨晋作

岩槻キャンパス音楽部の部員数は約40名ほど。年に数回のライブに向け、部員同士でバンドを組んで練習に励む。夏と冬には構内の食堂で、また桐翠祭でもライブを行っている。活動日は決められておらず、集まれる部員のみで毎日活動している。岩槻キャンパスは、言語聴覚学科や看護学科など、実習の多い学科ばかりだ。1年を通して学科ごとの実習期間が異なり、全員が集まれることが少ないため活動日は決めていない。部内の雰囲気は明るく、先輩が後輩へ授業や実習のアドバイスをするなど、縦の繋がりを大切にしている。

新宿キャンパス



ミス目白は ロッキー好き!

目白大学で昨年10月に開催された学園祭「桐和祭」で何年かぶりにミス目白コンテストが行われた。大変盛況に終わったこのイベントで、ミス目白に輝いたのは、経営学部経営学科の4年生、梅津美祐さん。映画「ロッキー」は自分の一部だという、負けず嫌いの頼もしい女性である。

梅津さんは、同学科の竹内進教授のもとで、租税法について学んでいる。もともと会計の勉強と、法律を学びたかったという。その彼女がこのイベントに参加した理由は、経営学部の学生を少しでも多く桐和祭へ足を運んでもらえるようにしたかったからだ。桐和祭にあまり行かない経営学部の学生が、少しでも興味を持って来られるようにとのことだった。そのため本人としては目白大学の学生へのアピールを重点的に行い、2日間の桐和祭の一般来場者の投票にあまり期待していなかった。

ところが、投票結果は堂々の1位。本人にとっても意外な結果となった。「優勝する気はあったけど、まさか本当に出来ることに観せられていたため、手元にないと落ち

幅広い支持で優勝

「ロッキー」は私の一部

「する」と強い決心で

「SPISチャレンジ」の企画応募条件とは?

「地域社会及び大学、学生に直接、間接に貢献し社会性のあるプロジェクトであることが第一

「こんな企画では...」と思わずますます積極的に応募して、自分のやりたいことの実現に向けて頑張つて欲しい。このような機会はないので、上手く利用してもらいたい。チャレンジ精神があり、計画を粘り強くやり遂げることができる学生に応募して欲しいです」

着かないほど自分の一部になっているという。この映画の影響で、本人曰く、とても負けず嫌いになったそう。

学生の チャレンジにSPIS

奨学金や奨励金、学校側から学生に支援を行う制度はいくつが存在する。その中でも本学でユニークなのが、「目白大学SPISチャレンジ制度」だ。

「SPIS（スパイス）」とは、「SPIS = Students Project Incentive Scholarship」の略で、学生の自主的な活動を学校側が支援する奨励金制度。大抵の奨励金は結果を残してから受け取る場合が多い。しかし、「SPISチャレンジ」は、企画立案の段階で奨励金を受け取ることが出来る。

「今後の課題とは?」

「SPISチャレンジ」の認知度が低いことです。掲示でお知らせはしているのですが、なかなか...。今まで出た企画はボランティア色が強い」と、児玉さん。

SPISチャレンジ24年度採用企画

- 【新宿】
 - ・留学生対象 狭山茶 茶道教室華道・餅つき、そして韓国文化紹介の開催
 - ・日本語教育に関するCM作り
 - ・紙芝居で高齢者に笑顔を（訪問ボランティア）
- 【岩槻】
 - ・NPO 法人体験活動研究会第14回わんぱく AQUA キャンプボランティア
 - ・学内イルミネーションガーデンプロジェクト



岩槻イルミネーションガーデンプロジェクト (撮影: 目白大学入試広報部) SPIS チャレンジ24年度採用企画

マナー改善へ影の力

中井駅から目白大学までの道には毎日、数名の警備員が目を見守っている。学生の通学マナーに対して、かねてから近隣住民からの苦情が多いため指導にあたっているのだ。あまり注目されることはないかもしれないが、警備員は他にも目白大学をより良い大学にするために日々努力している。

その中の1人が、(株)GISの高野義明さんだ。新宿キャンパスでの勤務は平成22年4月から。朝の登校時は高野さんが含めた5名の警備員で踏切や五の坂に立ち、その後は3名で巡回などを担当している。1日の仕事は、朝8時30分から9時頃までの登校指導から始まる。次に学内の巡回をする。駐輪場の整理や禁煙場所以喫煙していないか、キャンパス周辺でバイクの駐車がされていないかなどを見回る。そして、16時から18時頃まで下校指導をして、1日の仕事が終わる。

中でも大変なことは、やはり通学時の指導だ。五の坂では近隣の苦情も多いため、広がって大声で喋らないように注意するがなかなか直らないという。また、喫煙に関しては、1号館テラスの喫煙場所の外まで喫煙者が溢れかえり、4号館まで通路を塞いでしまっている。喫煙場所の広さなどの問題もあるが、マナーは改善の必要があるという。駐輪場では特に第2、第3駐輪場は乱雑になりやすい。バイクでの通学も本来は禁止されていることだ。

とはいえ、目白大学に来た当初よりは確実に学生のマナーが向上しているという。「近隣の住民に学生のマナーが良かったと評判になったときにはやがていを感じました」と高野さんが誇らしげに語った。

学生に伝えたいことは、やはりマナー向上に努力するべきということだ。「歩きながらの喫煙や吸い殻を投げ捨てる、テラスや屋上で弁当を食べた後にごみを片付けないといったことはやめて欲しいです。また、通学時横に広がり、大声で喋るのも注意してもらいたいですね」

目白大学をより良い大学にするために、警備員をはじめ様々な人たちが影で自立たない努力を重ねている。その労に報いるためにも、学生たちは普段の生活からマナーを守ることを心がけるべきだろう。



通学時や校内で生徒の安全に気を配る

(編集部3年 泉 明宏)

(編集部3年 阿形宏一)

「日本の大学は歴史を教えない。歴史を知らないというのは許されない」と、強く訴えたのは目白大学で1月10日に開催された特別講演「韓国・朝鮮・Korean」日本と半島の狭間で」の講師、梁英姫（ヤン・ヨンヒ）氏。

日本で生まれ育ったコリアン2世で映画監督である梁氏が、まず指摘したことは、日本と韓国・朝鮮を取り巻く社会状況がいかに変化してきたかという点だ。

梁氏が15年前、ある日本の大学で講演を行った際、「日本国籍ではない人いますか？」という質問をしたところ誰も手を挙げなかった。次に全員に目を瞑ってもらい、再度同じ質問をしたところ10人程手が上がった。当時は「自分は日本国籍ではない」とオープンに言う雰囲気はなく、多くの在日の人々は国籍について悩んでいたという。

梁氏自身も学生時代に日本社会の風潮や、自らの国籍を告げた時の相手の反応に悩むことが多々あったそうだ。例えばアルバイトに応募すると、名前が「梁」というだけで、採用されないことがほとんどだったという。

しかし、現在、韓流やK-POPの人氣が高まり、メディアに頻繁に取りあげられるなどして、韓国・朝鮮の人や文化が日本人の日常生活の中に自然に溶け込んでいる。その影響もあってか、目白大学でも韓国語学科は競争率が高い人気学科だ。このような状況は梁氏によれば、「少し前まではあまり考えられないことだった」という。「本名でアルバイトも見つけることが難しかった在日コリアンが監督した映画が、アカデミー賞外国語映画部門の日本代表作に選ばれたんですからね。日本も変わってきた、良くなってきたと思います」

歴史をもっと知ろう

梁英姫 監督 特別講演

し、昨年公開された、次兄との実話をもとにした『かぞくのくに』という映画である。

梁氏が学生たちに強調したことは、歴史をもっと勉強するべきだということだ。

「海外の学生に比べて日本の大学生は一番日本の歴史を知らない。あなた達が社会に出て働く時には国同士の関係が大きく変わって、きつと今まで関わりがなかった国の人と仕事をする機会が増えていくでしょう。もしその時に歴史について尋ねられたいとして、学生の間は『わからない』と答えてもいいですが、社会に出て『大人』という立場になったらそれは通じません。語学に対しても、もっと意欲的になってください。先進国で戦争のない日本に生まれ、学ぶ環境が整っている、こんな幸せな状況の中では何もいわずにはできません。自ら学んでください」

戦前の日本の朝鮮半島支配に対し、戦後生まれの今の若者が罪悪感を感じる必要はないが、「歴史を知らない」というのは許されないと指摘。

秋入学 賛成？反対？

大学の入学時期を4月から9月へと変更しようとする動きが出てきている。東京大学を皮切りに、他大学にも秋入学導入の動きが始まっている。現在、目白大学では秋入学の導入は検討されていないが、(交換留学生は除く)実現すればどのようなメリットとデメリットがあるのだろうか。

大学の入学時期については法令に定められており、遡ると学制公布(明治5年)から大正9年までの間、日本の大学は9月入

自身の“アンテナ”を磨け

学生はどのように学びを鍛えればいいのか。特に梁氏が学生たちに身につけて欲しいと話したのが、英語でいうところの「critical thinking」(クリティカルシンキング)。社会や政治、それに社会常識やメディアの伝える情報に対し、「それは本当なのか？」という健全な疑問や批評精神を持つことだ。

「学生時代は、あなた自身の“アンテナ”を磨いてください。これから一生使うアンテナです。社会に行き交う様々な情報を受信して、一つの情報を鵜呑みにするのではなく、その受信した情報から自分の感性を磨き、考え、意見をしっかりと伝える人になってください」(編集部3年 久保木沙織)



梁英姫 1964年、大阪市生野区生まれ。2006年に『ディア・ビョンヤン』が第65回ベルリン国際映画祭を受賞。映画部門最優秀アジア映画賞を公開。2011年に『愛しきソナ』

メリット

秋入学の導入によって考えられるメリットは次の4つである。

国際交流 秋入学の導入によって学事暦が国際基準と整合することで、学生や教員の国際交流の可能性が高まる。

ギャップターム 秋入学導入によって生まれる空白期間(ギャップターム)に、多様な体験機会を充実させることができる。

入試時期を集約することができる(秋入学一本化にする場合) 教員の研究時間が十分に確保できる。さらに入試関係事業を簡素化できる。

卒業が夏、就職が秋以降となる 課業期間終了後の夏を就職活動に当てることができ、就職活動などに影響なく大学教育をしっかりと行うことができる。日本固有の問題である、企業の採用活動との関わりについても、これを社会全体で考え直す機会となる。

デメリットと課題 では、デメリットとはいかなるものか。秋入学導入が実現すると、高等学校が3月末卒業であることから、大学卒業までに要する期間は少なくとも半年延びることになる。また、春の一括採用が主流である日本の雇用慣行からすると、卒業から就職までの空白が生じ、その場合、高卒から就職までの期間はトータルで1年間延びることになる。すべての学校が秋入学を導入しない限り、この空白期間の問題については、これらの課題を解決するためには、国際化を目指す大学が改革を進めやすい環境にしなくてはならない。そうした環境づくりに、国立大学の経費や留学生受入れ、日本人学生の海外留学への経済的支援などの援助が必要である。こうした制度や予算面の対応に限らず、社会から秋入学に対する幅広い理解と協力をいかにして得るのが今後の重要な課題だといえる。

学であった。しかし、高等学校への進学率が増大したことから、先に4月入学制を実施していた中学校と高等学校との連携を図り、大正10年以降は4月入学へ改められた。ここ数年、国際化への対応を背景に秋入学の導入が議論されてきている。最近では、内閣総理大臣の諮問機関である教育再生会議の報告書(平成19年)にて、「国は、海外から帰国生徒や海外からの留学生の要請に応えるとともに、日本版ギャップタイ(ギャップターム)などの導入による若者の多様な体験の機会を充実させる観点から、大学・大学院における9月入学を大幅に促進する必要がある」と提言され、これを受けて制度改正が行われた。

ネット時代の新しい著作権

クリエイティブ・コモンズ

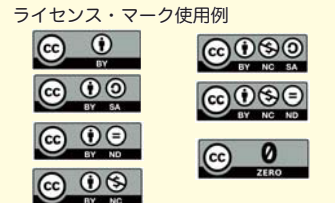
誰もが表現者・発信者に簡単になることができるこの時代、自分の作品を広く披露したいという人はたくさん存在する。また、その作品を使いたいという人もいるだろう。しかし、作品は著作権法で保護されているため、それが容易ではないことが多い。「クリエイティブ・コモンズ」(CC)とは、その作品の使用をよりスムーズにするためのプロジェクトである。昨年11月28日に本学社会学部メディア表現学科主宰で開催されたシンポジウムにおいて、森・濱田・松本法律事務所パートナー弁護士で、クリエイティブ・コモンズ・ジャパン専務理事の野口祐子氏がその内容を講演した。

CCとは、インターネット時代の新しい著作権ルールを普及させることを目的とした、国際的な非営利団体とそのプロジェクトの総称である。

著作物使用のため独自のライセンスを発行しており、①作り手の名前を適切に表示すること「表示」②作り手の作品で利益を得ないこと「非営利」③作り手と同じライセンスで発表すること「継承」④作り手の作品を改造しないこと「改変禁止」の4つがあり、そのライセンスマークを組み合わせて使用する。中にはライセンスを付けない「ZERO」というものも存在する。

「表示」は当初オプショナルであったが、98%の人が選んで使用したため、2004年にデフォルトとなったという。著作権者側はこのマークを自由に組み合わせて使用し、利用者側はこのライセンスに従って作品を利用できる。このライセンスはだんだんと緩く付けられるようになってきている。2005年には非営利が74%、改変禁止を33%の人が選んでいたが、2010年には非営利が49%、改変禁止が20%と選ぶ人が減っている。より

自由に使えるようになってきているのだ。とても画期的なプロジェクトであるCCだが、意識の高い権利者にしか使われないなどの問題も存在する。「著作権を守ってほしい人、自由に使ってほしい人、今の時代に合わせて使い分けたい」と、野口さん。古い考え方はかりにとらわれず、日本でもCCが広く使われ、ネット時代に相応しい著作権が模索されていくのではないだろうか。



編集後記

今回の目白大学新聞では、本学の新しい取り組みや個性豊かな人や意見を紹介しています。新入生はもちろん、在校生・保護者の皆さんが、目白大学の新しい魅力を発見できるように記事を精選しました。私たち学生ならではの視点から見た目白大学を知って頂ければ幸いです。

(副編集長3年 坂本真澄)